2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月13日

上場会社名	AI　CROSS株式会社		上場取引所　東
コード番号	4476	ＵＲＬ　https://aicross.co.jp/	
代表者	（役職名）代表取締役CEO	（氏名）原田　典子	
問合せ先責任者	（役職名）執行役員CFO Strategic Operations Group本部長	（氏名）圖子田　健	ＴＥＬ　050-1745-3021
配当支払開始予定日	－		

決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有　（個人投資家向け）

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	3,846	32.4	523	91.3	523	89.8	344	184.6
2025年12月期第３四半期	2,905	6.7	273	△21.3	275	△20.1	120	△37.1

（注）包括利益　2026年12月期第３四半期　344百万円（188.6%）　2025年12月期第３四半期　119百万円（△38.0%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	90.46	89.47
2025年12月期第３四半期	32.20	30.95

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	3,244	2,314	67.9
2025年12月期	3,084	1,946	60.2

（参考）自己資本　2026年12月期第３四半期　2,203百万円　2025年12月期　1,856百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2026年12月期	－	0.00	－		
2026年12月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,300	27.7	600	61.9	590	61.1	360	117.9	94.69

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
　　新規　－社　（社名）－、除外　－社　（社名）－

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：無
②　①以外の会計方針の変更	：無
③　会計上の見積りの変更	：無
④　修正再表示	：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	4,087,850株	2025年12月期	4,083,850株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	281,904株	2025年12月期	281,904株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	3,805,536株	2025年12月期３Ｑ	3,756,457株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予測のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書… …… 5
四半期連結損益計算書 …… 5
四半期連結包括利益計算書 …… 6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（会計方針の変更に関する注記）… …… 7
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 7
（セグメント情報等の注記） …… 8
（重要な後発事象） …… 8
３．その他 …… 8
継続企業の前提に関する重要事象等 …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

我が国経済は、緩やかに回復しているものの、中東情勢や自然災害の影響には注視が必要な状況にあります。今後は、雇用・所得環境の改善や政府による各種政策の効果などが、引き続き緩やかな回復を支えることが期待されます。一方で、中東情勢や自然災害の影響を引き続き注視する必要があるほか、金融資本市場の変動などの影響にも留意が必要な状況です。

このような環境下、当社グループは「Smart Work, Smart Life」をミッションとし、2025年２月14日公表の「中期経営計画 AIX2027 2025～2027（連結）」に基づき、メッセージングサービスのプラットフォーム提供から、メッセージングサービス×AIによるマーケティングソリューション提供へのモデル転換を推進しております。また、子会社である株式会社ロウプが有するマーケティング設計力・クリエイティブ制作力及びデータ分析・CRM（※１）／MA（※２）運用ノウハウと、当社のメッセージングサービス×AIを組み合わせることで、顧客企業に対する統合的なマーケティング支援のさらなる強化を図っております。

これらの結果、当第３四半期連結累計期間の業績は、売上高3,846,342千円（前年同期比32.4%増）、営業利益523,074千円（前年同期比91.3%増）、経常利益523,651千円（前年同期比89.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益344,236千円（前年同期比184.6%増）となりました。

当社グループは、2026年１月より報告セグメントを変更しております。従来の「Smart AI Engagement事業」は、メッセージングサービスとAIサービスを一体で展開してまいりましたが、AIサービスの事業拡大に伴い、「スマートメッセージング事業」と「AIトランスフォーメーション事業」の２セグメントに変更いたしました。この結果、「マーケティングソリューション事業」と合わせ、現在は３セグメントにて事業を運営しております。なお、前期に係る数値については、現行のセグメント区分に組み替えて表示しております。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

(スマートメッセージング事業)

スマートメッセージング事業は、主にB2Cビジネスを営む国内外の事業者に対して、エンドユーザーの保有するモバイル端末にSMS（※３）やRCS（※４）を配信するためのプラットフォームを提供しております。
本事業が展開するビジネスコミュニケーションプラットフォーム関連市場は成長を続けており、2030年度にはSMSの配信数が14,268百万通に達するという調査結果（出所：デロイト トーマツ ミック経済研究所「ミックITリポート2025年12月号」）があります。今後も、本人認証や未入金督促等の通知にとどまらず、RCSを活用したプロモーションやMAとの連携が進むことで、関連市場は引き続き高い成長が見込まれます。

このような事業環境の中、SMS及びRCS配信・チャットボットプラットフォーム「絶対リーチ！RCS」を展開し、配信数の拡大を図っております。あわせて、収益性の高い国内顧客への注力及び金融・人材関連サービスを中心とした業界特化施策の推進、さらにはメッセージングサービスとAI技術を組み合わせた統合型ソリューションの提供により、サービスの付加価値向上と収益性の改善を進めております。

これらの結果、当セグメントの売上高は3,301,841千円（前年同期比16.4%増）、セグメント利益は845,522千円（前年同期比8.6%増）となりました。

(AIトランスフォーメーション事業)

AIトランスフォーメーション事業は、ノーコードAI分析ツール「Deep Predictor」を主要サービスとして展開しています。「Deep Predictor」は、従来データサイエンティストが担っていたAI分析を、直感的なユーザーインターフェースにより専門知識を持たない担当者でも容易に実行できるツールであり、顧客企業の課題に合わせた最適なプラン及びカスタマイズを組み合わせて提供しております。
生成AIをはじめとするAI技術の急速な普及を背景に、企業のAI活用ニーズは業種・規模を問わず拡大しており、関連市場は引き続き高い成長が見込まれます。このような環境の中、当事業は独自の顧客基盤と収益性を確立し、スマートメッセージング事業との連携も活かしながら、AIソリューション領域における事業拡大を推進してまいります。

これらの結果、当セグメントの売上高は134,467千円（前年同期比94.3%増）、セグメント損失は876千円（前年同期は34,851千円のセグメント損失）となりました。

(マーケティングソリューション事業)

マーケティングソリューション事業は、子会社である株式会社ロウプを通じて、広告企画・プロモーション、クリエイティブ制作、戦略立案・マーケティングリサーチ、メディア開発・運営など、顧客企業の課題に応じた総合的なコミュニケーション設計サービスを提供しております。

企業のマーケティング投資需要が堅調に推移する中、顧客との接点全体を見据えたマーケティング設計力・ク

リエイティブ制作力に対するニーズは引き続き高く、関連市場は安定した成長が見込まれます。

このような事業環境の中、主要取引先を中心とした既存案件の深耕及び新規案件の提案活動を継続し、取引領域の拡大を図っております。また、当社グループのメッセージング×AIとの連携を深めることで、顧客企業に対する統合的なマーケティング支援の強化と、さらなる事業成長の加速を推進してまいります。

これらの結果、当セグメントの売上高は424,296千円、セグメント利益は48,794千円となりました（前年同期は連結対象外であったため、前年同期比較の記載は省略しております）。

（※１）「Customer Relationship Management」の略で、顧客情報を一元管理・分析し、営業、マーケティング、カスタマーサポートなど、あらゆる業務の効率化と売上向上につなげることを目的とした手法やそのためのシステムのことを指します。

（※２）「Marketing Automation」の略で、見込み顧客の獲得から育成、既存顧客への継続的なアプローチまでを、デジタル技術によって自動化・効率化する仕組みを指します。

（※３）「ショートメッセージサービス」の略で、相手先の電話番号だけで文字情報を送受信できるサービス。

（※４）Rich Communication Servicesの略で、世界的に標準化されている次世代メッセージングサービスの国際規格です。

（２）財政状態に関する説明

（資産）

当第３四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて159,964千円増加し、3,244,604千円となりました。

これは主に、現金及び預金が265,418千円増加した一方で、売掛金及び契約資産が41,511千円、のれんが30,590千円それぞれ減少したことによるものであります。

（負債）

当第３四半期連結会計期間末における負債合計は前連結会計年度末に比べて208,578千円減少し、929,647千円となりました。

これは主に、株主優待引当金が87,273千円、長期借入金が69,003千円それぞれ減少したことによるものであります。

（純資産）

当第３四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて368,543千円増加し、2,314,957千円となりました。

これは主に、利益剰余金が344,236千円増加したことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第３四半期連結累計期間における業績は概ね当初計画どおり推移していることから、2026年12月期の業績予想については、2026年２月13日公表の「2025年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて開示いたしました通期業績予想から変更はありません。現時点において、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。今後、業績予想を修正する必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2025年12月31日）	当第３四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,815,691	2,081,109
売掛金及び契約資産	685,569	644,058
前払費用	29,666	27,512
その他	39,149	43,351
貸倒引当金	△3,103	△11,333
流動資産合計	2,566,973	2,784,698
固定資産		
有形固定資産	4,735	4,908
無形固定資産		
のれん	269,645	239,055
その他	130,355	112,762
無形固定資産合計	400,001	351,817
投資その他の資産	112,929	103,179
固定資産合計	517,666	459,905
資産合計	3,084,639	3,244,604
負債の部		
流動負債		
買掛金	379,503	358,027
１年内返済予定の長期借入金	92,004	92,004
未払金	60,847	40,225
未払費用	20,718	9,987
未払法人税等	74,990	95,709
預り金	10,223	11,311
契約負債	2,772	187
株主優待引当金	87,273	－
その他	64,897	46,048
流動負債合計	793,231	653,499
固定負債		
長期借入金	344,995	275,992
その他	－	155
固定負債合計	344,995	276,147
負債合計	1,138,226	929,647
純資産の部		
株主資本		
資本金	40,094	41,428
資本剰余金	940,945	942,279
利益剰余金	1,175,437	1,519,674
自己株式	△300,625	△300,625
株主資本合計	1,855,851	2,202,756
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	403	1,164
その他有価証券評価差額金	57	57
その他の包括利益累計額合計	461	1,221
新株予約権	90,100	110,978
純資産合計	1,946,413	2,314,957
負債純資産合計	3,084,639	3,244,604

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
売上高	2,905,205	3,846,342
売上原価	1,806,098	2,496,777
売上総利益	1,099,107	1,349,565
販売費及び一般管理費	825,631	826,491
営業利益	273,476	523,074
営業外収益		
受取利息	2,100	4,717
為替差益	325	－
その他	58	1,071
営業外収益合計	2,484	5,788
営業外費用		
支払利息	6	4,532
為替差損	－	393
その他	－	284
営業外費用合計	6	5,211
経常利益	275,953	523,651
特別利益		
投資有価証券売却益	－	18,818
特別利益合計	－	18,818
特別損失		
投資有価証券評価損	7,185	－
特別損失合計	7,185	－
税金等調整前四半期純利益	268,768	542,470
法人税、住民税及び事業税	106,532	188,598
法人税等調整額	41,291	9,634
法人税等合計	147,824	198,233
四半期純利益	120,944	344,236
非支配株主に帰属する四半期純利益	－	－
親会社株主に帰属する四半期純利益	120,944	344,236

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
四半期純利益	120,944	344,236
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	△1,421	760
その他の包括利益合計	△1,421	760
四半期包括利益	119,522	344,997
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	119,522	344,997
非支配株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　2025年１月１日　至　2025年９月30日）

該当事項はありません。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　2026年１月１日　至　2026年９月30日）

該当事項はありません。

（会計方針の変更に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	24,218千円	34,099千円
のれんの償却額	981千円	30,590千円

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　2025年１月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	スマートメッセージング事業	AIトランスフォーメーション事業	マーケティングソリューション事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,836,005	69,200	－	2,905,205	－	2,905,205
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－
計	2,836,005	69,200	－	2,905,205	－	2,905,205
セグメント利益又はセグメント損失（△）	778,229	△34,851	－	743,377	△469,901	273,476

（注）１．セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、報告セグメントに配分していない全社費用の金額であり、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費等であります。

２．セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　2026年１月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	スマートメッセージング事業	AIトランスフォーメーション事業	マーケティングソリューション事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,301,790	134,467	410,084	3,846,342	－	3,846,342
セグメント間の内部売上高又は振替高	51	－	14,212	14,263	△14,263	－
計	3,301,841	134,467	424,296	3,860,606	△14,263	3,846,342
セグメント利益又はセグメント損失（△）	845,522	△876	48,794	893,440	△370,366	523,074

（注）１．セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、報告セグメントに配分していない全社費用の金額であり、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費等であります。

２．セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループの報告セグメントは、従来「Smart AI Engagement事業」と「マーケティングソリューション事業」の２区分により開示しておりましたが、AIサービスの事業拡大に伴い、従来の「Smart AI Engagement事業」を「スマートメッセージング事業」と「AIトランスフォーメーション事業」の２セグメントに変更し、この結果、「マーケティングソリューション事業」と合わせ、現在は３セグメントを報告セグメントとしております。

なお、前第３四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成したものを記載しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

３．その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。